

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0875100018
法人名	有限会社 グッドライフ
事業所名	グッドライフ真壁
所在地 (電話番号)	茨城県桜川市真壁町飯塚1017 (電話)0296-54-1661

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年9月29日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	7人

(2)建物概要

建物形態	併設	改装
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	県西総合病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筑波山のふもとのどかな田園風景をホームの裏に、正面には大きなスーパーやファッションセンターがあり、自然の中で四季の変化を感じ、買い物や外出などの楽しみ事も充実したところに設立されている。ホームでは家庭的な暮らしの提供をモットーに利用者の希望にあわせ清潔の保持と毎日の入浴の提供、利用者には、それぞれの役割を持っていただき日々の生活の中で活動性が向上できるよう配慮している。また男性の利用者に対しても男性独自の役割を持っていただき生活している。利用者希望の時間を重視しケアの提供を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者個々の情報を介護計画に反映できるよう、ケアプラン及びケースカンファレンスを定期的に開催するようにし、職員の詳細な情報を各利用者のケアプランに反映できるよう工夫された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価を理解し、職員に啓発し自己評価に対しても管理者は積極的に評価しケアの向上を念頭に自己評価に取りくまれた。今後は自己評価に対して職員の意見を今一層反映させ更なるケアの向上に期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開設後地域の協力を得て運営推進会議を開催している。行政や遠方の家族もある中で日程の調整など努力・配慮されている。利用者家族の出席、行政の参加など今後も運営推進会議の啓発に努力されさらに充実した会議の開催を希望したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情や家族の意見などは苦情箱などを設置した状態で収集されている。また家族来所時に直接聞き取り、または報告を行うことで家族との意見交換を行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>行政などの連携を充実させ地域との連携をさらに強固にするよう工夫されている。今後は、地域連携や自治会参加など更なる地域連携への工夫に期待される。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を玄関や事務所に掲げ職員や来訪者がいつでも見れるよう工夫されている。利用者個人に合わせた介護サービスの提供を心がけ地域に密着したホーム作りを理念にかかげ、家庭的な環境に少しでも近づけるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティング時に職員に管理者から理念を踏まえ説明している。職員も運営理念を理解し毎日のケアの提供に心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住人にホームへ来所していただき、踊りなどを披露していただく場を設けている。	○	地域性もあるが今後は自治会への参加、ご近所付き合いなど、地域に密着したホーム作りを目指し積極的な参加を心がけ地元住人との交流を増やせるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しケアの向上改善に向け取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が少なく今後の会議の開催に期待される。	○	今後、家族会や地域とのかかわり交流を増やし運営推進会議の開催をさらに増やせるよう工夫されたい。

茨城県 グループホームグッドライフ真壁

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と密接に連携しホームでの出来事や事故の報告相談などかわりを持つように工夫している。また行政からの、相談ごとなども積極的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来所時に、職員から直接説明や利用時の様子について写真などを家族に送付し金銭管理とともに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時に職員からの説明など直接コミュニケーションを取るようにしている。家族への報告と共に家族からの意見や意向などを聞き取れるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動は最小限にしている。利用者へは、職員の移動や離職などからダメージを最小限にするため説明するなどの配慮がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者職員を育成するための計画を上げ計画的な職員の育成の取り組みに取り組んでいけるよう計画している。	○	今後は、管理者や職員の育成や外部研修など計画的に参加できるよう検討し取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの連携を図り職員の研修などを行いサービスの質の向上に努めている。	○	今後も近隣のグループホームとの連携をとり交換研修などのほかに利用者間の交流なども含めケアの質の向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設するデイサービスなどを利用し馴染みの関係を持ちスムーズな入居へ配慮がある。また1週間程度の体験利用など利用者への混乱を防ぐための配慮もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫など利用者の特技を生かし職員が利用者から教えてもらうなど職員と共に過ごし支えあう関係を維持している。また利用者個人に好きなものを好きなときに行ってもらえるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家庭菜園などを取り入れたり、ホーム周辺の草取りなど利用者の生活史を生かし利用者の意向に沿うよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合い利用者の個性に合わせた介護計画の作成に努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状に応じた介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に心がけている。	○	職員の情報やアセスメント、モニタリングなどをさらに活用され利用者個々のケアプラン作成に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイやデイサービスなどを利用し柔軟な支援を提供している。希望により家族の宿泊などの支援も提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者馴染みの医師への受診や通院に対し基本的に職員が全面的に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルの受け入れは行っていない。救急搬送や急変時ホームでの生活に困難が生じた場合家族と相談し医療機関での処置や入院にスムーズに移行できるよう配慮している。	○	今後利用者の身体状況や利用者及び家族の意見などを踏まえターミナルケアへの整備に取り組んでいただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録など個人の情報が外部に漏洩しないよう、記録物などは事務所書庫への保管し配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望意向に沿えるよう、生活リズムへ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は職員と一緒に食べることが出来るよう配慮し、また食器などは利用者馴染みの物を利用し食事が楽しめるよう配慮している。下膳や茶碗洗いなど積極的に利用者の参加を促し食事開始から終了まで細かな配慮があり楽しめる食事への支援に努力されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を心がけ実施している、入浴を拒否する利用者には当たっては、清潔を保持するため清拭を行うなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や家庭菜園など利用者の意向に沿った役割を提供している。男性の利用者も多く掃除や力仕事など男性利用者の役割への細かな配慮がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に大型スーパーなどもあり買い物などの外出を積極的に行っている。また地域の小さな商店などでは、店主とお茶を飲みながら買い物するなどの細かな配慮がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを提供している。夜間防犯のために施錠するが利用者や訪問者は自由に出入りできるよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に関係機関など協力が得られるよう働きかけを行っている。	○	今後は、避難訓練などを定期的実施し職員の災害に対する啓発を行い意識の向上に努めるほか、災害時への備蓄品などへの配慮等取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人の食事の摂取量や水分の摂取量を個別的に記載し保管している。また職員がいつでも確認できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を広く取り、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、持ち込みのベッドやカーテンを利用し馴染みの空間の提供に配慮している。		